

(HP公開様式；HP公開様式)

(提出必要；電子ファイル)

政務活動費の調査研究に係る海外調査、宿泊を伴う県外調査の概要

1 題目：公明党県外調査、佐野弘仁（他同伴議員、誠心会2名、令和会2名）

2 調査報告概要

| | |
|-------------|---|
| 調査者 会派名等 | [会派名、調査者全員の氏名] 公明党 佐野弘仁 (他 自民党誠心会 水岸富美男 議員、杉原清仁 議員 令和会 卯月政人 議員、鷹野一雄 議員) |
| 調査内容 | <p>1 調査目的</p> <p>①山梨県は森林面積が広い森林県であり、昨今地球規模でも課題となっている CO2 削減の必要性、持続可能な社会構築のため、森林バイオマス事業にどのように取り組んでいくべきか、その方向性を見出す。</p> <p>②少子化、高齢化時代に突入し、若者が街づくりに参加していくことは今後の自治体運営にも大いに課題であり、合わせて高齢者への課題である認知症介護者が減少する 2030 年問題へ向け、認知症対策についての先進自例を調査し、今後どのように取り組んでいくべきか、その方向性を見出す。</p> <p>③農山漁村地域において自然、文化、人々との交流を楽しむ滞在型の余暇活動であるグリーンツーリズムは、本県でも大月市で開始されているが先進的な取組みを調査し、今後中山間地域が多い本県が、どのように取り組んでいくべきか、その方向性を見出す。</p> <p>④山梨県は内陸県であるが、昨今問題となっているプラスチックごみの海洋汚染は内陸からの取組みも課題となってきた。今後どのように取り組んでいくべきか、その方向性を見出す。</p> <p>2 調査テーマ</p> <p>①森林バイオマス地域供給体制づくり支援事業について。</p> <p>②認知症支援の取組みについて、スマホゲームを通したまちづくりワークショップについて。</p> <p>③リュウキンカの郷、人吉球磨グリーンツーリズムについて</p> <p>④かごしま環境未来館、環境保全活動の取組みについて。</p> |

3 調査期間

令和 元年 10月 23日～令和 元年 10月 25日 (2泊 3日)

4 調査地 [海外→国名・都市名]・[国内→都道府県名・市町村名]

- ①宮崎県宮崎市
- ②宮崎県小林市
- ③熊本県あさぎり町
- ④鹿児島県鹿児島市

5 その他

特に無し

3 調査テーマ毎の調査項目と選定理由

| | |
|--|--|
| <p>【調査テーマ】</p> <p>①森林バイオマス地域供給体制づくり支援事業について。</p> | <p>【調査項目】</p> <p>森林バイオマス地域供給体制づくり支援事業</p> <p>【選定理由】</p> <p>持続可能な社会構築のため、森林バイオマス事業にどのように取り組んでいくべきか、可能性や課題を調査し、本県での取り組みの参考とするため選定した。</p> <p>【調査結果の活用方針】</p> <p>山梨県では「やまなしエネルギービジョン」（平成28年3月）の策定により、木質バイオマスの利活用の取組方針、施策、利用目標を制定している。先進的な取組みを調査し、県下での木質バイオマス発電事業拡大への参考としたい。</p> |
| <p>【調査テーマ】</p> <p>②認知症支援の取組みについて。スマホゲームを通したまちづくりワークショップについて。</p> | <p>【調査項目】</p> <p>徹視的ではあるが、地方自治体の高齢者対策としての認知症施策の全国先進例を捉えた調査。合わせて同自治体では若者定住促進としての、若者世代の行政参画を推進している政策の調査。</p> <p>【選定理由】</p> <p>2030年問題も全国的に懸念されているなか、基礎自治体の市町村で全国でも先進的な認知症施策を調査し、自治体から基礎自治体への落とし込みとは逆な、ミクロからマクロへと現場の実情からの政策反映が県政策や、県内市町村にも参考となるため調査地として選定した。</p> <p>更に高齢化層と合わせ高校生等の若年層への政策も、バーチャルでシムシティ課職員と地元高校生が街づくりワークショップを年次的に実施し、スマホゲームを通し、バーチャルでの高校生のアイデアが具体的に、行政の政策、施策、事業が実際に実行されていると言う。高齢化層、若年層の同時両極2つを、同時に政策調査ができることから選定した。</p> <p>【調査結果の活用方針】</p> <p>高齢化、少子化の両端で実施されている先進性は、本県や本県の市町村に於いても大きな有益性があり、同行した他会派議員とも連携、協議して、本会議、委員会等での政策提言項目として活用したい。</p> |

| | |
|---|---|
| <p>〔調査テーマ〕</p> <p>③リュウキンカの郷、人吉球磨グリーンツーリズムについて</p> | <p>〔調査項目〕</p> <p>ボランティアでの地域の高齢者見守り、共助組織からスタートし、街の活性化と高齢者雇用までを実現したこと。平成29年からは農水省農産漁村振興交付金活用に抛り、農泊推進事業着手までの経緯と結果について。</p> <p>〔選定理由〕</p> <p>本県に於いても有用財産である自然、文化、人々との交流を楽しむ滞在型の余暇活動を利活用して、国の補助金を活用したグリーンツーリズム実施の調査。行政でなく住民自らが率先して先進的な取り組みを実施している先進性があるため選定した。</p> <p>〔調査結果の活用方針〕</p> <p>本県産業に於いても骨格を成す農業を利用し、農業体験と宿泊を取入れた新たな取り組みについては、同行した他会派議員とも連携、協議して、本会議、委員会等での政策提言項目として活用したい。</p> |
| <p>〔調査テーマ〕</p> <p>④かごしま環境未来館、環境保全活動の取り組みについて。</p> | <p>〔調査項目〕</p> <p>昨今問題となっているプラスチックごみの海洋汚染問題と共に、内陸県からの上流側取組みとして、河川のマイクロプラスチック汚染も課題となってきた。先ず現状の日本近海の汚染状況と、先進的な環境教育の実施状況と、プラスチックごみ削減の取組みについて調査。</p> <p>〔選定理由〕</p> <p>当該施設の事業内容の1番目が環境学習であること、施設内をゾーン毎に環境影響について解りやすく学べる場となっていること。施設運営としては、利用者数が毎年増えている指定管理者の事業努力について調査したかったため。</p> <p>〔調査結果の活用方針〕</p> <p>山梨県内大学を中心に主要河川でのマイクロプラスチック汚染調査と研究が進んでいる。ローカルマニフェストとしてマイクロプラスチック対策を掲げたことから、政策提言のための調査として本会議、委員会等での政策提言のための調査項目としたい。また本報告書に於いての4テーマ全ては、地方自治法100条第14項に基づく、議会活動に資する調査研究での活用としていく。</p> |

4 調査項目に係る調査都市・施設・担当者等の選定

| 調査項目 | 都市（市町村）名・施設名・担当者名及び選定理由 |
|--|---|
| <p>①森林バイオマス地域供給体制づくり支援事業について。</p> <p>1.木質バイオマス活用型再造林支援</p> <p>2.風倒等被害木活用型再造林支援</p> | <p>[都市（市町村）名・施設名・担当者名]</p> <p>宮崎県宮崎市橋通り東2-10-1 宮崎県庁 宮崎県議会事務局 政策調査課 中村様、菊池様 宮崎県環境森林部 田崎 様、松永 様、世見 様</p> <p>[選定理由]</p> <p>持続可能な社会構築のため、森林バイオマス事業にどのように取り組んでいくべきか、可能性や課題を調査し、本県での取り組みの参考とするため選定した。</p> |
| <p>②認知症支援の取組みについて。スマホゲームを通じたまちづくりワークショップについて。</p> <p>1.認知症支援の取組みについて。（長寿介護課）</p> <p>2.スマホゲームを通じたまちづくりワークショップについて。（地方創生課）</p> | <p>[都市（市町村）名・施設名・担当者名]</p> <p>宮崎県小林市細野 300 番 小林市役所 小林市議会事務局 坂下 様、西 様 小林市健康福祉部 大角 様、橋口 様 小林市地域包括支援センター 中本 様 のじり地域包括支援センター 八重尾 様 総合政策学部 地方創生課 プロモーショングループ 深見 様</p> <p>[選定理由]</p> <p>介護人材が少なくなる2030年問題も全国的に懸念されているなか、基礎自治体の市町村で全国でも先進的な認知症施策を調査し、自治体から基礎自治体への落とし込みとは逆な、ミクロからマクロへと現場の実情からの政策反映が県政策にも県内市町村にも参考となるため選定した。</p> <p>更に高齢化層と共に、高校生等の若年層への政策も行われており、バーチャルのシムシティ課職員と地元高校生が街づくりワークショップを年次的に実施し、スマホゲームを通し、バーチャルでの高校生のアイデアが具体的に、行政の政策、施策、事業として実際に実行されていると言う、高齢化層対策、若年層対策の同時両極の2つの政策調査ができることから選定した。</p> |

| | |
|---|--|
| <p>③リュウキンカの郷、人吉球磨グリーンツーリズムについて</p> <p>1.熊本 人吉・球磨の実践からの検証、農泊で繋げる、人・まち・暮らし</p> | <p>[都市（市町村）名・施設名・担当者名]</p> <p>熊本県あさぎり町深田西 879-1 食・農・人総合研究所リュウキンカの郷 本田 様、 様、 様 農林水産省、農林水産研究所 神山 様、佐藤 様</p> <p>[選定理由]</p> <p>本県に於いても有用財産である自然、文化、人々との交流を楽しむ滞在型の余暇活動を利活用して、国の補助金を活用したグリーンツーリズム実施の調査。行政でなく住民自らが率先して先進的な取組みを実施している先進性があるため選定した。</p> |
| <p>④かごしま環境未来館、環境保全活動の取組みについて。</p> <p>1.座学。かごしま環境未来館での学習内容</p> <p>2.運営の基本方針、管理体制等</p> <p>3.展示視察・説明。展示の構成説明</p> | <p>[都市（市町村）名・施設名・担当者名]</p> <p>鹿児島県鹿児島市城西 2-1-5 かごしま環境未来館 公益財団法人かごしま環境未来財団 様</p> <p>[選定理由]</p> <p>当該施設の事業内容の1番目が環境学習であること、施設内をゾーン毎に環境影響について解りやすく学べる場となっていること。施設運営としては、利用者数が毎年増えている指定管理者の事業努力について調査したかったため。</p> |

5 調査内容

○調査テーマ：(森林環境、高齢層認知症びに若年層定住、グリーンツーリズム、海洋環境プラスチックごみ、マイクロプラスチック問題)

| | | | |
|--------|--|-----|--------|
| 調査項目 | ①森林バイオマス地域供給体制づくり支援事業について。 1.木質バイオマス活用型再造林支援 2.風倒等被害木活用型再造林支援 | | |
| 調査都市等 | 宮崎県宮崎市橋通り東 2-10-1 | 調査日 | 10月23日 |
| 調査結果概要 | 宮崎県は平成3年以来、28年間連続してスギの生産量は全国一位であり、製材品出荷量も973千m ³ で全国2位と言う林業王国である。そのなかで持続可能な地域造りを目指す森林バイオマス地域供給体制づくり支援事業として、収益を再造林に活用している。このため県では、事業促進のために、生産、造林業の地域協議会に対し、林地残材の収集運搬経費、風倒等の被害木搬出運搬の取組みを支援している。先の事業内容としての補助率は定額で、事業効果も再造林の促進、中山間地域の産業振興、着実な再造林により林地の荒廃の防止に寄与している。 | | |

| | | | |
|--------|--|-----|--------|
| 調査項目 | ②認知症支援の取組みについて。スマホゲームを通じたまちづくりワークショップについて。 1.認知症支援の取組みについて。(長寿介護課) 2.スマホゲームを通じたまちづくりワークショップについて。(地方創生課) | | |
| 調査都市等 | 宮崎県小林市細野 300 番 | 調査日 | 10月24日 |
| 調査結果概要 | 始めに認知症支援の取組みについてであるが、全市4万6千人余の人口の内、12,212人が認知症サポーターで登録されていることは驚きである。市内小中学校全校でもサポーターの取組みを実施する他、看護学校、郵便局、薬局、地域では地区、JA、老人クラブまでと、人口比率に占める割合は非常に高い。細かな取組みも多く、認知症の方と一緒に農福連携での収穫祭、「貯筋ステーション」としてフレイル予防講座や認知症研修会が頻繁に実施されている。介護福祉士の資格を持っていなくても、研修を受ければヘルパーとして生活援助に限定して担い手として従事できるようになっていることも先進的である。 全国的にも有名な方言がフランス語?と「田舎女子校生」PRビデオが全国的にも有名になった宮崎県小林市であるが、最先端な取組みとし | | |

| | |
|--|--|
| | <p>てエレクトロニック・アーツ社とコラボし、スマホ向けゲーム「シムシティ ビルドイット」を通した高校生とのまちづくりワークショップを進める「シムシティ課」が設立されている。ゲームを通し、まちづくりを考えると今までにあまり例を見ない地方創生の取り組みにより、若い世代に自分が住むまちをもう一度見直し、まちづくりに興味を持つ次代の人材が育っている。平成30年には5回に渡り「まちづくり検討会」が開催されている。</p> |
|--|--|

| | | | |
|--------|---|-----|--------|
| 調査項目 | <p>③リュウキンカの郷、人吉球磨グリーンツーリズムについて 1.熊本 人吉・球磨の実践からの検証、農泊で繋げる人・まち・暮らし</p> | | |
| 調査都市等 | 熊本県あさぎり町深田西 879-1 | 調査日 | 10月24日 |
| 調査結果概要 | <p>山梨の自然農村元風景に通じ活かすことができる熊本県人吉球磨グリーンツーリズムについて。地域づくりからスタートしたコミュニティビジネスの30年、98年から60～70歳代の主婦を中心に雇用し女性活躍時代、高齢者雇用の先駆けであった。平成18年には10市町村連携型による人吉球磨ツーリズム推進協議会設立された。地域住民にとっても、都市住民との交流により地域の価値を再認識してもらうことで、いきがいにつなげ、地域の活性化を推進している。協議会の委員数は20人（うち女性4人）。</p> | | |

| | | | |
|--------|--|-----|--------|
| 調査項目 | <p>④かごしま環境未来館、環境保全活動の取組みについて。 1.座学。かごしま環境未来館での学習内容 2.運営の基本方針、管理体制等 3.展示視察・説明。展示の構成説明</p> | | |
| 調査都市等 | 鹿児島県鹿児島市城西 2-1-5 | 調査日 | 10月25日 |
| 調査結果概要 | <p>視察最終日、かごしま環境未来館での、「私達がしてきたこと、私達がすべきこと」環境保全活動の取組について学ぶ。今回の県議会議員選挙マニフェストでは、マイクロプラスチック対策を掲げていて、2月議会で取り上げさせて頂いた。基礎自治体市町村での検査実施には、県、国による基準が必要となる。また持続可能な環境影響調査を実施していくための対策には住民協働でのプラスチックごみそのものの削減も必要である。H18年から直営で財団法人として運営、H30年来館者数は126,208人とH20からの10年で毎年増加し続けている。</p> | | |

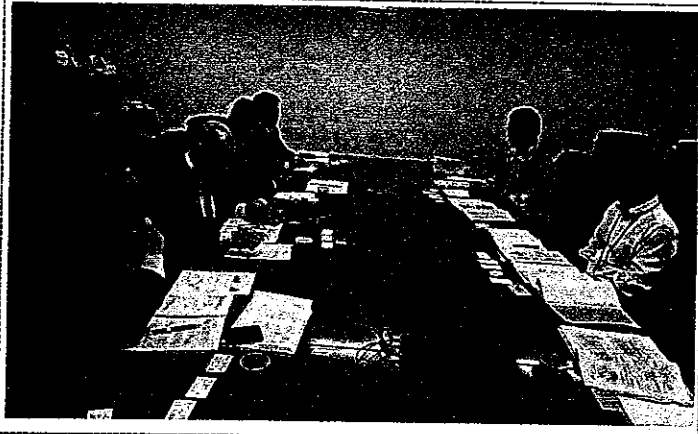
○各参加者の所感及び調査結果の活用方針

| 議員氏名 | 所感及び活用の考え方 |
|------|---|
| 佐野弘仁 | <p>①森林バイオマス地域供給体制づくり支援事業について。 山梨も県南は杉、桧、北部のカラマツなど広大な森林面積を占める森林県であり、県政策の更なる推進と共に林業関係者からの要望を頂いており、林業担い手不足の確保、活性化にも資する案件調査としてできた。本調査の活用としては再生林の促進システムを「やまなしエネルギービジョン」への反映ができればと考える。</p> <p>②認知症支援の取組みについて。スマホゲームを通したまちづくりワークショップについて。 高齢者層の認知症対策については、他自治体に類を見ない施策、事業の充実であり、認知症支援としての認知症サポーターの数は人口比率の4割や、認知症事業の多さには驚くべきことで、これは当に共助の精神が高い街であることの証左であると感嘆した。また高校生は自ら街づくりに参画することに抛り、自分の街への愛着が湧き、県外大学に進学したとしても、故郷にまた戻って来たいと言う良い流れが創られるものだと考えられる。本調査の活用としては、認知症介護を支える人材育成の方向性が示唆されていることから事務事業として反映できればと考え、若年層へは本県でも5G活用が視野に入っていることから、スマホを使った行政参加型の施策構築ができればと考える。</p> <p>③リュウキンカの郷、人吉球磨グリーンツーリズムについて。 それぞれの地域で人のため、地域を良くするためには、担当者一人でもやり切ろうと真剣に努力する心が必要であることが解る好事例を視察させて頂いた。本調査の活用としては、山梨県の桃を中心とした果樹の「農」を活かし、中山間にある古民家を利活用しての農泊は、観光施策、地域活性化事業の方向性として必要だと考える。</p> <p>④かごしま環境未来館、環境保全活動の取組みについて。 民間の取組みが次世代を担う子ども達の環境教育に繋がり、自治体を動かしていることに感銘を受けた。今後の山梨県での取組みの方向性の示唆を頂くことができ、実り多い視察を行うことができたことに感謝している。</p> <p>現在、マイクロプラスチックについては、水質汚濁防止法で規定する県が作成する公共用水域及び地下水における水質測定計画の対象外となっていることから、調査現況を踏まえ、検査を今後実施する方向性で、調査の地点や方法などの基準を模索するための一助として、視察結果を活用していきたいと考える。</p> |

※調査テーマ毎に作成

6 調査状況 (写真)

○ 令和元年 10月 23日 調査先 (宮崎県庁)



(コメント)

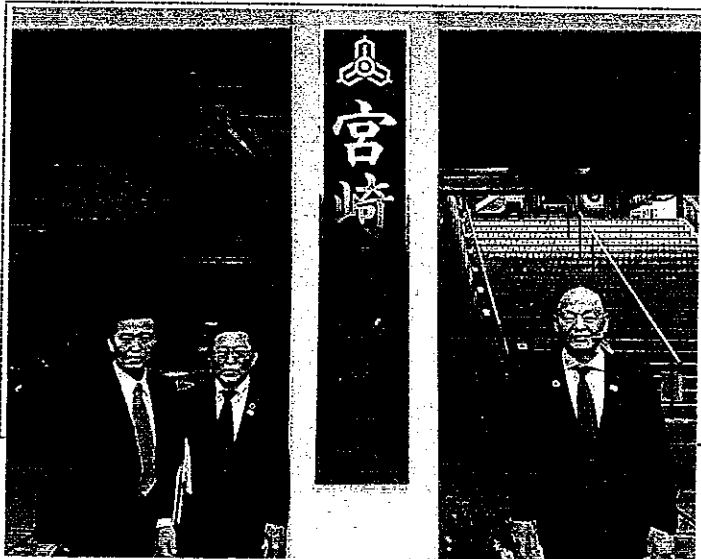
宮崎県庁職員の方々からご教示頂く。



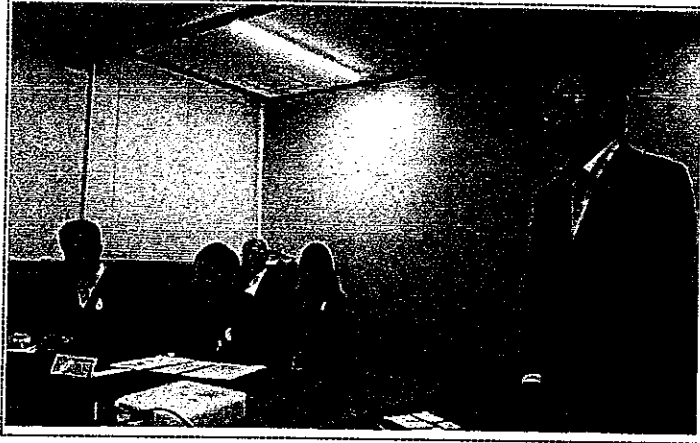
(コメント)

最下部写真

宮崎県議会議事堂前にて集合写真



○ 令和元年 10月 24日 調査先 (宮崎県小林市役所)



(コメント)

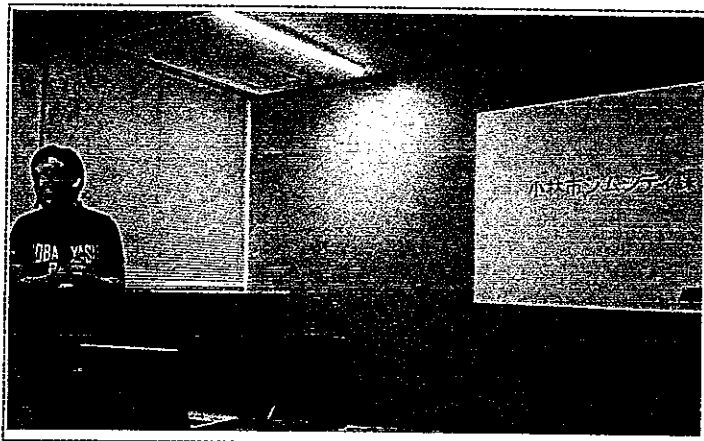
小林市役所担当職員の方々から
ご教示頂く。



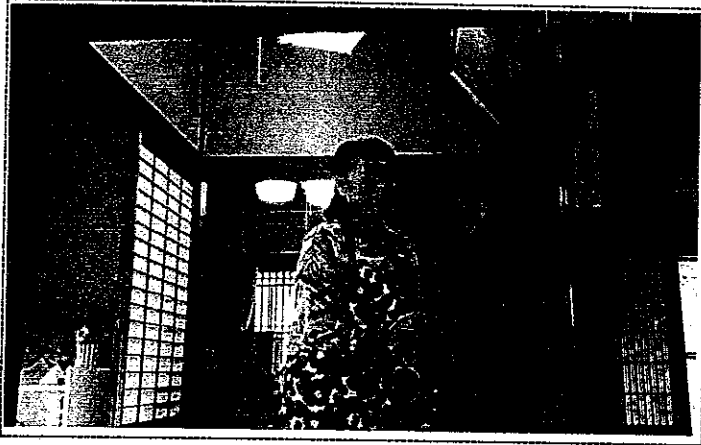
(コメント)

超党派での視察

最下段は若者施策を推進している
シムシティ課担当の方



○ 令和元年 10月 24日 調査先 (リュウキンカの郷)



(コメント)

女性活躍時代の騎手、本田節代表理事
パワフルな熱き想いに感動。



(コメント)

農泊時に供される食事を頂く、
地元の食材を使った地産地消での
味わい深い食膳であった。

最下段左

樺木理事長よりあいさつ

